

概要版



みやぎ森と緑の県民条例基本計画

～新みやぎ森林・林業の将来ビジョン～



2018 ▶▶▶ 2027

宮 城 県

1 新みやぎ森林・林業の将来ビジョン策定の経緯

宮城県では、本県の森林づくり並びに林業及び木材産業の振興についての基本理念を定めた、「みやぎ森と緑の県民条例」が宮城県議会議員により提案され、平成30年(西暦2018年)4月に制定されました。同条例では、森林づくり並びに林業及び木材産業の振興施策の基本事項を定め、その施策を計画的に推進する基本計画として「新みやぎ森林・林業の将来ビジョン」が位置づけられました。

「新みやぎの森林・林業の将来ビジョン」は、森林・林業行政の中長期的な指針として平成20年(2008年)に策定した「みやぎの森林・林業の将来ビジョン」の見直しを行い、本県の森林、林業・木材産業の振興と森林の整備・保全に関する施策の強化に向けて、本県の目指すべき森林、林業・木材産業の将来像と行政運営の理念、平成30年度から平成39年度(2027年度)までの10年間に取り組むべき施策や到達目標などを提示したものです。

2 新みやぎ森林・林業の将来ビジョン計画期間

平成30年度(2018年度)から平成39年度(2027年度)までの10年間

3 森林、林業・木材産業に期待される役割

森林の役割

- 地球規模での環境保全に寄与
二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防止
- 私たちの安全・安心で快適な生活に寄与
国土の保全、水源のかん養、保健休養の場の提供のほか、木材やきのこなどの林産物の供給などの多面的な機能



森林、林業・木材産業をめぐる情勢の変化

- 東日本大震災の発生
- 人口減少社会の到来と地方創生の推進
- 森林機能に対する社会的ニーズの高まり
- 森林資源の充実と林業の成長産業化
- 木材需要の変化と新たな木材利用の創出

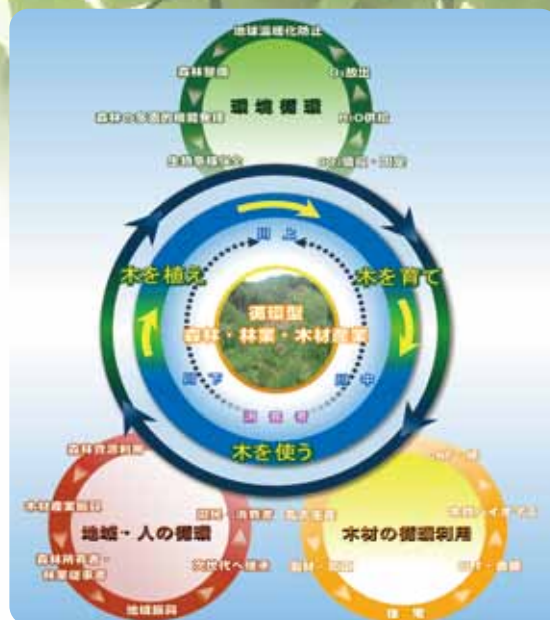
本県森林、林業・木材産業の現状と課題

- 森林資源は成熟し利用可能な段階、再造林や森林整備は低迷
- 森林所有者の森林経営意欲が低下
- 素材需要ニーズは多様化、需要動向を見据えた取組が必要
- きのこ生産は震災による風評被害などにより厳しい環境
- 山地災害への備えから高まる森林保全・保護の重要性

4 森林、林業・木材産業の目指す姿

“木を使い・植え・育てる”循環の仕組みが定着し、旺盛な木材需要の下で県産材自給率が向上することにより、県内林業・木材産業が活力あふれる循環型産業として成長しています。

また、水源の保全、県土保全や地球温暖化防止など森林の持つ多面的機能が発揮され、県民が森や木を身近に感じながら安心して暮らせる宮城が実現しています。



森林、林業・木材産業の目指す姿概念図

環境循環、木材の循環利用、地域・人の循環が歯車のようにしっかりとかみ合っているという状態を表しています。

5 森林・林業行政の理念

「森林環境の保全」
「低炭素社会の構築」
「地域経済の発展」

それぞれが共存し、均衡が取れた宮城の森林・林業

6 政策を推進する基本方向と12の取組

本県森林、林業・木材産業の情勢及び現状を踏まえ、目指す姿を実現するために、以下の4つの政策推進の基本方向に沿って12の取組を推進していきます。

政策推進の基本方向

政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

県産木材の生産流通改革や県産木材の新たな需要創出のほか、東北地方最大の消費地仙台を抱えるなど豊富な需要を活かし、持続可能な林業経営の推進に取り組み、林業・木材産業のより一層の産業力強化を図ります。

政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

森林の持つ多面的機能をより一層発揮させるため、「木を使い、植え、育てる」という森林資源の循環利用を通じた森林の整備や多様性に富む健全な森林づくりを推進し、自然災害に強い県土の保全対策に取り組みます。

政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

林業・木材産業の産業力強化と森林の多面的機能発揮を図るため、経営感覚に優れた経営者や林業従事者の育成を図るほか、地域間や産業間の連携により、地域産業の育成、森林の保全や循環型産業としての林業・木材産業の重要性に対する県民理解の醸成に取り組みます。

政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

植栽したクロマツ等の計画的な保育・管理を進めるほか、特用林産物の原発事故に伴う出荷制限の解除や、原木しいたけ等の生産回復などに取り組みます。また、地域資源を最大限に活用し、震災を契機とした地域産業の活性化や地域づくりを推進します。

12の取組

- 取組1 県産木材の生産流通改革
- 取組2 県産木材の需要創出とシェア拡大
- 取組3 持続可能な林業経営の推進
- 取組4 資源の循環利用を通じた森林の整備
- 取組5 多様性に富む健全な森林づくりの推進
- 取組6 自然災害に強い県土の保全対策
- 取組7 持続的成長をけん引する経営体や担い手の育成
- 取組8 地域・産業間の連携による地域産業の育成
- 取組9 新たな森林、林業・木材産業関連技術の開発・改良
- 取組10 森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成
- 取組11 海岸防災林の再生と特用林産物の復興
- 取組12 地域資源をフル活用した震災復興と発展

7 政策別 1 2 の取組内容

政策 I 林業・木材産業の一層の産業力強化

取組1 県産木材の生産流通改革

- 素材生産性を向上させる林業基盤の整備と人材の育成
- ICTを活用した木材需給システムの構築など



取組2 県産木材の需要創出とシェア拡大

- オールみやぎによるCLT等建築物の普及
- 製材加工の品質向上・合理化と合板の新規用途開発の促進など



取組3 持続可能な林業経営の推進

- 森林施業の集約化に向けた森林経営計画策定の促進
- 経営受託等による森林管理の促進など

主な目標指標		現 況 値	目標 H39(2027)
素材生産量	[年間]	586 千m ³ H28(2016)	700 千m ³
林業(木材)産出額	[年間]	44 億円 H27(2015)	56 億円

【用語の説明】

ICT(情報通信技術): 情報通信に関する技術の総称。ICTは, Information and Communication Technology の略語。

CLT: 一定の寸法に加工されたひき板(ラミナ)を繊維方向が直交するように積層接着した木材製品。CLTはCross-Laminated- Timberの略。

政策 II 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

取組4 資源の循環利用を通じた森林の整備

- 低コストな間伐の推進による森林の整備
- 主伐・再造林の推進による森林資源の再造成など



取組5 多様性に富む健全な森林づくりの推進

- NPOや企業など多様な主体との連携の促進
- 松くい虫被害対策の推進と松林景観の保全など



取組6 自然災害に強い県土の保全対策

- 重要な森林の保安林指定と適切な管理・整備の推進
- 山地災害危険地区の計画的な整備の推進など

主な目標指標		現 況 値	目標 H39(2027)
間伐実施面積	[年間]	2,714 ha H27(2015)	5,600 ha
山地災害危険地区(Aランク)の 治山工事着手率	[累計]	56 % H28(2016)	65 %

政策Ⅲ

森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

取組7 持続的成長をけん引する経営体や担い手の育成

- 経営感覚・経営能力のスキルアップの支援
- 森林組合の経営体制の強化など



取組8 地域・産業間の連携による地域産業の育成

- 水平連携による新たなものづくりへの支援
- 特用林産物の収益力向上に対する支援など



取組9 新たな森林、林業・木材産業関連技術の開発・改良

- ニーズの的確な把握や関係機関との連携等による効率的な試験研究の実施
- 県民、森林所有者、業界等の研究ニーズの把握と試験研究への反映など



取組10 森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成

- 県民の学びをサポートする専門家の養成
- 県民参加の森林づくりによる県民理解の醸成など

主な目標指標	現 況 値	目標 H39(2027)
新規林業就業者数 [年間]	54人 H28(2016)	100人
林業(特用林産物)産出額 [年間]	36億円 H27(2015)	46億円

政策Ⅳ

東日本大震災からの復興と発展

取組11 海岸防災林の再生と特用林産物の復興

- 海岸防災林の再生と適切な維持管理
- 福島第一原子力発電所事故による放射能汚染問題への対応など



取組12 地域資源をフル活用した震災復興と発展

- 公共施設等への認証材活用の促進
- 森林認証を核とした地域振興の推進など

主な目標指標	現 況 値	目標 H39(2027)
海岸防災林(民有林)の造成面積 [累計]	228 ha H28(2016)	750 ha
特用林産生産施設のGAP認証取得数 [累計]	2件 H28(2016)	15件

【用語の説明】

GAP: 農業生産工程管理と訳され、生産工程を管理しながら農業を行うこと。GAPは、Good Agricultural Practiceの略。



8 5つの重点プロジェクト

5つの重点プロジェクトを推進

50年後、100年後の宮城の森林、林業・木材産業の姿を考え、県がこの10年間で取り組む施策の中でも特に力を注いでいくべき取組を「重点プロジェクト」として5つ設定し、国、市町村、森林、林業・木材産業関係者はもとより、県民や企業、ボランティア団体など多様な主体の協力を得ながら推進していきます。

重点プロジェクト1

新たな素材需給システムと木材需要創出 ～年間70万m³への挑戦～

- CLT建築の普及を最重点にし、積極果敢に新たな木材需要創出の取組を推進します。
- 製材加工の水平連携による効率化を進めるとともに、必要な高次加工製材品を県外工場と連携して製作するなど、新たな設備投資を抑えた加工・製品流通の進展により県産木材の活用を促進します。
- 木質バイオマス活用による森林資源の地域循環推進や、余剰原木などの海外輸出や広葉樹素材のネット取引など、未利用資源の需要を開拓します。



重点プロジェクト2

主伐・再造林による資源の循環利用

- 森林所有者との森林施業管理委託（長期契約）等により、意欲と能力のある林業経営者への施業集約を推進します。
- 民間資金を活用した再造林等への支援の拡充や新たな森林管理体制の検討を行います。
- 森林管理の担い手としての林業事業体の組織体制強化を図ります。
- 施業の低コスト化に向けて、事業体間の連携、省力化施業や技術開発を進めます。
- 森林情報等を活用した管理経営の集積・集約化を進めます。



重点プロジェクト3

経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保

- 林業事業体の経営者に対し、儲かる林業のための経営ノウハウと、人材育成に関する実践的なセミナーを実施し、優れた経営者を育成することを支援します。
- 経験年数に応じた体系的な育成研修を実施し、林業就業者の定着化と着実なキャリアアップやステップアップに向けて総合的に支援します。
- 小中高それぞれの段階において教育機関と連携し、児童・生徒に環境や自然を守る大切な仕事として林業を認識してもらうための体験学習を実施します。



重点プロジェクト4

地域・産業間連携による地域資源の活用

- 企業や工業デザイナーなど異業種とのマッチングにより、安全安心なきのこや環境に配慮した森林・木材に更なる魅力を付加し、消費者の嗜好性を満足させる地域ブランドを開発します。
- FSC認証木材やGAP認証きのこなどの流通促進とロット確保により地域ブランドの製造・販売を促進、新しい流通体系を構築し、国内外における販路の拡大を促進します。
- 地域ブランドを生み出す認証森林や栽培施設を活用した体験ツアーなど新サービスの提供や、交流施設の整備によって交流人口を拡大し、震災からの復興と発展を図ります。



重点プロジェクト5

海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

- 国、県、市町と協定を結んだ民間活動団体等が中心となって、海岸林整備や環境・防災教育などのイベントを継続的に実施していける仕組みを整備します。
- 記録誌の作成やシンポジウム開催等により、海岸防災林再生の取組などを広く紹介し、海岸防災林の重要性を普及します。





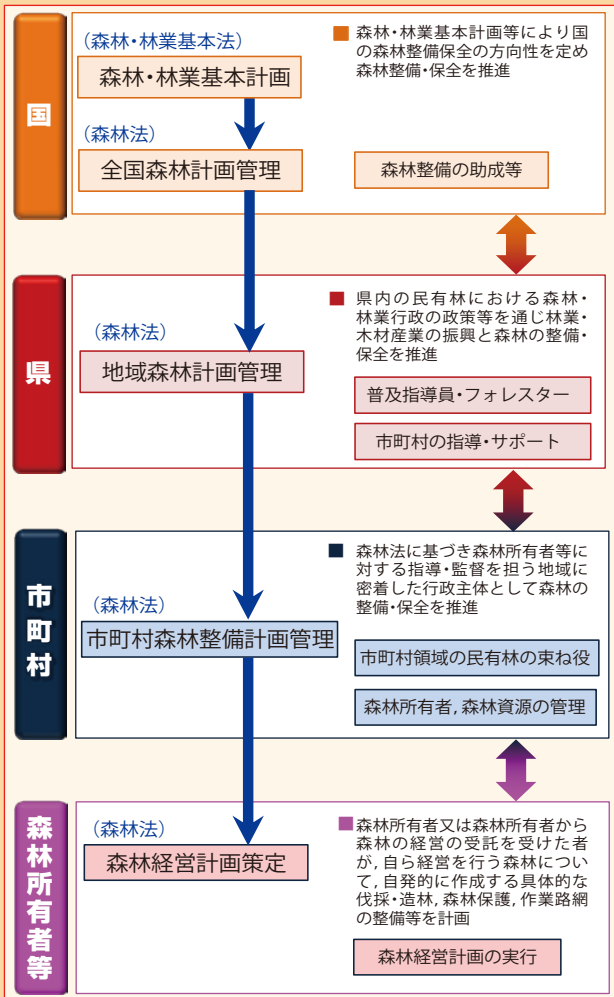
森林の有する多面的機能の恩恵

県民・社会

森林整備・保全・木材供給など

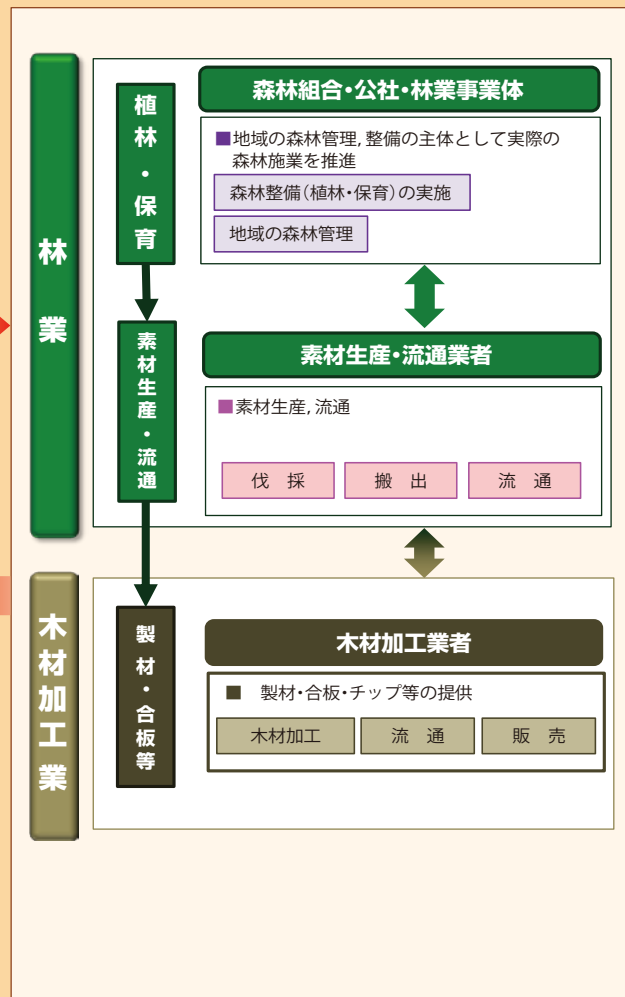
行政, 森林所有者

林業, 木材産業



支援

連携



本ビジョンに関するご意見やご提案は下記までお願いします。

宮城県農林水産部 林業振興課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号
 TEL 022-211-2911 FAX 022-211-2919
 E-mail rinsin@pref.miyagi.lg.jp
 URL http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/